

コラム①：マンゴーにおける収穫後の病害虫防除対策について

収穫後、結果枝を切り返して発生する夏秋梢と、花痕枝から発生する新梢は次年度の結果母枝となります。充実した健全な結果母枝とするためには、この時期に徹底して病害虫防除を行うことが重要です。

1 注意すべき病害虫

チャノキイロアザミウマ

成虫



新葉上の幼虫

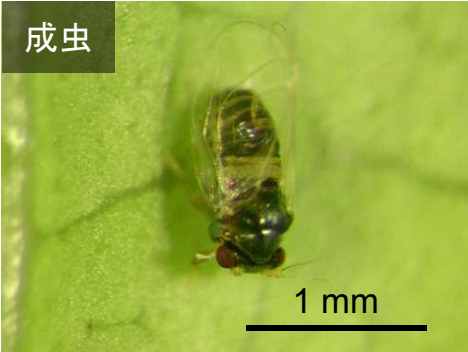


被害葉



マンゴーキジラミ

成虫



幼虫

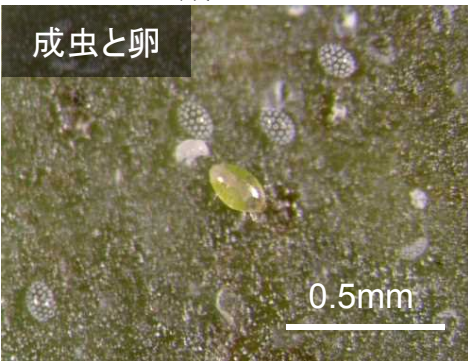


被害葉



ホコリダニ類

成虫と卵



被害葉



キイロワタフキカイガラムシ

成虫



ハダニ類

シュレイツメハダニ



マンゴーツメハダニ



被害葉



チョウ目幼虫

コシロモンドクガ



タイワンキドクガ



ナカジロフサヤガ



1 注意すべき病害虫（続き）

マンゴーハフクレタマバエ



炭疽病



かいよう病



枝枯細菌病



2 防除対策

- アザミウマ類、ハダニ類やカイガラムシ類などの微小害虫は一般的に風雨に弱いことから、収穫を終えた施設では、樹勢回復も兼ねて、早めに被覆ビニールを取り除く。
- 台風等による折損等の傷から、かいよう病や枝枯細菌病の病原菌が侵入し発病するため、防風対策を図る。
- せん定後の残さは、炭疽病や軸腐病などの発生源となるため、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- 罹病枝をせん定した後のせん定器具の消毒を徹底する。
- 収穫期に病害虫の発生の多かった施設では、薬剤による防除に努める。